かむかむ

とうせい歯科医院
〒399−4117 駒ヶ根市赤穂小町屋10737−1
TEL. 0265−83−0888
E-mail thousei@avis.ne.jp http://www.mcci.or.jp/www/thousei/

2012/4/17 Vol.136 編集(金田)

「歯の強度」について(2)

そして、よく言われることが、「歯は削られると脆くなり永くもたない」「歯の神経を取られた歯は欠けたり折れたりしやすい」という事ですが、確かに歯の表面のエナメル質を削られると、中の象牙質は柔らかく虫歯にもなりやすいです。さらに凍みたりしやすい所であるために、「永く歯を残していこうとすると、できるだけエナメル質は残した方が良い」という事になります。

さて、もう一方の「歯の神経を取られた歯は脆くなる」という事については、現在は賛否両論あるために一概には永く持たないともいえないようです。理由としては、「神経の無くなった歯は硬く脆くなり欠けやすい」「神経の無い歯は枯れ木と同様に乾燥して折れやすい」と言われてきた事に対して、「神経の有る歯と、神経の無い歯でその歯の水分量を計測してみたが、同じ程度であり、大きな違いはない」という報告があり、他には「神経の無い歯で歯が割れやすいのは、中に入れる金属の柱(ポスト)が、弾性係数の違いにより中から歯を割る楔の役割をしている」という歯科の先生もいるからです。

神経の無くなった歯は、やはり神経の有る歯に比べて栄養を運ぶ血管やリンパ管などが無くなる事で、ミネラル成分などが無くなり脆くなるという事はあるのではないでしょうか？　今までの30年近くの臨床経験でもやはり神経の有る歯が割れたという事は、事故などの外傷を除いてあまり診た覚えが無く、歯牙破折、歯根破折共に圧倒的に無髄歯(神経の無い歯)が多いことからも、そう言えると思います。

歯髄の無い歯に対して、奥歯に入れる「コア(金属の柱)」や前歯に入れる「ポスト(金属の柱)」は、近年保険診療でやっと評価がされてきた方法と材料ですが、以前から入れる柱の太さや長さの問題で理想的なものが入りにくい事や、保険診療での材料は、「銀合金」ですが、長い目で見た場合、「白金加金や金合金」のような酸化しにくい金属でない事や、耐久性や強度が不足したり、弾性係数の違いからの問題があり、最近は金属の柱をあまり中に入れない傾向になって来ています。

最近は、金属の代わりに、グラスファイバー(釣竿やゴルフのシャフトに使用)の様な弾力のある材料を中に入れて、接着性セメントやコンポジットレジンで固めて柱とするような方法に変わりつつあります。　それにより従来の金属による柱を入れた歯に比べれば、割れたり折れたりして歯を抜かれる機会が減るのではないでしょうか？

どのような治療方法でも、一生もつ治療というものはありません。　しかし、少しでも永く持たせるためには、歯の強度を考えた材料と治療方法を選択し、咬合力(噛む力)に調和したバランスの良い咬合面(咬み合わせ)を持った歯の治療を受ける事が大切ではないでしょうか？　(院長)

あなたの顎（あご）リラックスできていますか？

4月になってから、ポカポカ暖い日が続いていますね。
寒いとつい歯をくいしばってしまっていた…。そういう人も少なくないのではないでしょうか？寒さからのくいしばりが無くなったとしても、顎には様々な要因が重なって負担が、かかることがあります。

顎に負担をかける病気…「顎関節症」とは？？

顎の関節周辺に何らかの障害があること。

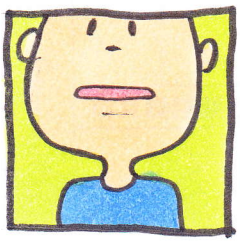
症状としては
- カクカク音が鳴る
- 口が開けにくい
- 口を開けると顎が痛いなど…

ストレスや精神疾患は顎関節症と深い関わりがあると言われています。

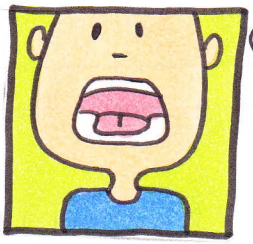
ストレスや精神的に不安なことがあると歯を強く噛みしめることがあります。それを繰り返すと顎関節をひき起こす原因となることもあるのです。日常のくせや、習慣を直すこと、ストレスをためすぎないことが大切です!!

こんな人は顎関節症になりやすい!!

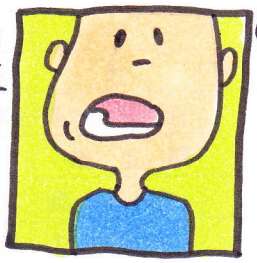
顎関節をリラックスさせる体操



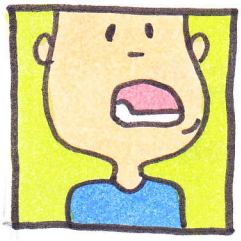
① 上下の歯の間指1本分あけておく



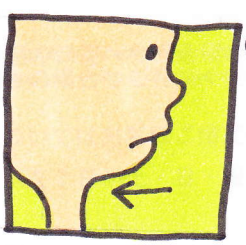
② 口をいっぱいに開いて20数えあごの筋肉から力を抜く



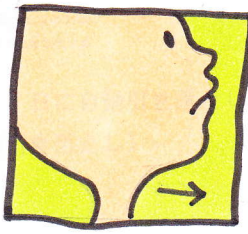
③ 下あごを右に動かし5つ数える



④ 下あごを左に動かし5つ数える



⑤ 下あごを後方にひいて5つ数える



⑥ 下あごを前方へ突き出し5つ数える

この体操を3回繰り返しましょう。

（担当：金田）